

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科名	国語	グループ名	Cグループ	年間授業時数	306 単位時間
年間指導目標	(知)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 (思)簡単な文で考えたり考えられる力を伸ばし、習得した力や方法を思い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う方法を高め、自分の思いや考えを伝えることができるようにする。 (学)言葉がもつよきを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教員	生井 恭子 多島 康美 紺野 大輔				
使用教科書	新しい国語上・下(東京書籍)				

期 月	単元(題材)名	指導目標	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
1 学 期	「きこえるよ」	15	・言葉の響きやリズムを楽しみながら、友達といっしょに声を出す。	(知)言葉の響きやリズムなどに注意して音読している。 (思)「読むこと」において、読んだ感想を共有している。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に声を出し、言葉の響きやリズムを楽しむとしている。
	「よろしくね」		・伝え合うために必要なことを選び、自己紹介を友達と楽しむ。	(知)身近なこと・身近なことにおいて、伝え合うために必要な事項を選んでいる。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に伝え合うために必要なことを選び、自己紹介し合う活動を楽しもうとしている。
	「たのしかうか」		・書きやすい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、楽しく運筆をする。	(主)これまでの経験を生かしながら、積極的に書きやすい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、楽しく運筆しようとしている。
	「なについてうのか」		・人と関わるときに大切な言葉を知る。	(知)身近なこと・身近なことにおいて、相手の発言を受けて話をつないでいる。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に人と関わるときに大切な言葉を知り、使おうとしている。
	「こえをきけよう」		・場面に応じた声の大きさをめると知り、活用する。	(知)姿勢や発声に注意して話している。 (思)「話すこと・聞くこと」において、伝えたい相手に応じて、声の大きさをふまれている。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に場面に応じた声の大きさをめると知り、活用しようとしている。
	「はじをきこう」		・平仮名を読んだり書いたりし、文字や言葉への関心をもつ	(知)平仮名を讀み、書いている。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。
	「あひさおのうた」		・姿勢や口形、発声や発音に注意して声を出し、音読する。	(知)姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して声を出し、音読しようとしている。
	「あひさおのうたをよめよう」		・音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉の身の回りに集める。	(主)これまでの経験を生かしながら、積極的に音節と文字との関係に気づき、「あ」「い」「う」「え」「お」の付く言葉を集めようとしている。
	「はまがたくさん」		・読み聞かせを聞いた物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合う。	(知)読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 (思)「読むこと」において、感じたことや思ったことを共有している。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に読み聞かせの話を聞き、読書に興味をもって、本に親しもうとしている。
	「あめですよ」		25	・お話の内容や感想を伝え合ったり、演じたりする。
「ふたとぶた」	・清音、濁音、半濁音の表記と音の違いを理解して、平仮名を讀んだり書いたりする。 ・紹介したい事情を決め、相手に聞こえるように話すことができる。	(知)清音や半濁音の使い方を理解して、平仮名を讀み、書いている。 (主)進んで清音、濁音、半濁音の使い方を理解し、今までの経験や学習を生かして、平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。		
「みんなはなはなぞう」	・簡単な文で、自分の気持ちを伝えたり、相手に聞こえるように話すことができる。	(知)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 (主)「話すこと・聞くこと」において、相手に応じて、声の大きさを工夫している。		
「ぶらをくろう」	・教科書の挿絵や、これまでの経験や学習などをもとにして「○○が△△する。」の文型で文を作る。	(知)文の中における主語と述語との関係に気づいている。 (主)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。		
「はたととん」	・お話を讀み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。	(知)語の主語や言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (思)「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (主)進んで場面の様子や登場人物の行動などの内容を捉え、今までの経験や学習を生かして、語の主語や言葉の響きなどに気をつけて音読しようとしている。		
「ははとわわわ」	・「は」と「わ」のどちらを使おうかを考えた文を作る。	(知)助詞の「は」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を讀み、書いている。 (主)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。		
「さおととお」	・説明的な文章を楽しんで讀み、分かったことを伝え合う。	(知)文の中における主語と述語との関係に気づいている。 (主)「書くこと」において、事情の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。		
「はをばつとわわ」	・「を」と「わ」のどちらを使おうかを考えた文を作る。	(知)助詞の「は」の使い方を理解して文の中で使っている。また、平仮名を讀み、書いている。 (主)進んで助詞の「は」の使い方を理解し、今までの経験や学習を生かして、文を作ろうとしている。		
「きいてつたえよう」	・友達が見つけた言葉を書いて、グループのみんなに正しく伝える。	(知)姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 (思)「話すこと」において、話し手が聞かなくていいことと自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。 (主)進んで話し手が聞かなくていいことを落とさないように集中して聞き、グループの友達に正しく伝えようとしている。		
「ねとこね」	25	・促音の表記と音節の対応を理解し、促音表記の平仮名を讀んだり書いたりする。 ・言葉遊びをしながら、平仮名を讀んだり書いたりする。		(知)促音の表記を理解して、平仮名を讀み、書いている。 (主)進んで促音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、促音表記の平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。
「あひるのあひり」		・音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意し、詩を音読したり五十音図を声に出したりする。	(知)音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 (主)進んで音節と文字との関係に気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意し、今までの経験や学習を生かして、詩を音読したり五十音図を声に出したりしようとしている。	
「のすすおん」		・長音の表記と音節の対応を理解し、長音表記の平仮名を讀んだり書いたりする。	(知)長音の表記を理解して、平仮名を讀み、書いている。 (主)進んで長音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、長音表記の平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。	
「のりやてをまもるのか」		・事情の順序を考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合う。	(知)文の中における主語と述語との関係に気づいている。 (主)進んで事情の順序などを考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合おうとしている。	
「いしやといしや」		・拍音、抑長音、抑促音の表記と音節の対応を理解して、拍音、抑長音及び抑促音表記の平仮名を讀んだり書いたりする。	(知)拍音、抑長音、抑促音の表記を理解して、平仮名を讀み、書いている。 (主)進んで拍音、抑長音及び抑促音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、拍音、抑長音及び抑促音表記の平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。	
「ごんごんごん」		・経験したことを伝える文章を書く。	(主)進んで拍音、抑長音及び抑促音の表記と音節の対応を理解し、今までの経験や学習を生かして、拍音、抑長音及び抑促音表記の平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。	
「おききかた」		・お話を讀み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。	(知)語の主語や言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (思)「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (主)進んで場面の様子や登場人物の行動などの内容を捉え、今までの経験や学習を生かして、音読を楽しもうとしている。	
「はとよは、はとよはなとこ」		・学校図書館を利用して読書に親しみ、図書館を活用する。	(知)読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 (主)進んで学校図書館を利用して読書に親しみ、今までの経験や学習を生かして、図書館を活用しようとしている。	
「こはばあそ(び)たをつくらう」		・言葉遊びや歌を作り、感じたことや想像したことを書いて友達と共有する。	(知)身近なことや表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 (主)進んで言葉遊びや歌を作り、感じたことや想像したことを書いて友達と共有する。	
「かたかたをみつけよう」		20	・片仮名で書く言葉を見つけ、片仮名を讀んだり書いたりする。	(知)片仮名を讀み、書いたりし、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。 (主)進んで片仮名で書く言葉を見つけ、今までの経験や学習を生かして、片仮名を讀んだり書いたりしようとしている。
「えにききかこう」	・日々の出来事について、伝えたいことを絵日記に書く。		(知)身近なことや表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 (主)進んで日々の出来事について、伝えたいことを絵日記に書く。	
「あひるあひり」	・詩を音読する。		(知)詩の内容や自分の体験と結び付けて感想を持っている。 (主)進んで詩の内容と自分の体験と結び付けて感想を持ち、今までの経験や学習を生かして、詩のまとまりや言葉の響きを楽しみながら音読しようとしている。	
「はなしたいなきたいな」	・報告したいことをみんなの前で話したり、友達を聞いて感想を述べたりする。		(知)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 (主)「話すこと・聞くこと」において、相手に応じて、声の大きさを工夫している。	
「かぞえうた」	・「かぞえうた」を音読したり、身の回りの物を数えたりする。		(知)身近なことや表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 (主)進んで「かぞえうた」を音読したり、身の回りの物を数えたりする。	
「はひやがら」	・お話を讀み、内容や感想などを伝え合ったり演じたりする。		(知)語の主語や言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (思)「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (主)進んで場面の様子や登場人物の行動などの内容を捉え、今までの経験や学習を生かして、語の主語や言葉の響きなどに気をつけて音読しようとしている。	
「かんじのはなし」	・漢字を使って文を作る。		(知)学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を讀み、漸次書き、文の中で使っている。 (主)進んで漢字の成り立ちを理解し、今までの経験や学習を生かして、学習した漢字を使った文を考えようとしている。	
「おはなしをよめよう サラダでけんさ」	・お話を讀み、登場人物に手紙を書く。		(知)平仮名及び片仮名を讀み、書いている。 (主)これまでの経験を生かしながら、積極的に平仮名を讀んだり書いたりしようとしている。	
「かたかたをみつけよう」	・身近なものから片仮名で書く言葉を集めて、正しく讀んだり書いたりする。		(知)「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (主)進んで身近なものから片仮名で書く言葉を集めて、正しく讀んだり書いたりする。	
「いれんせいりょうだんな」	・読書に親しみ、多様な本を讀んだり話したりする。		(知)読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 (主)読書に親しみ、多様な本を讀んだり話したりする。	
「なにに見えるかみ」	・質問したりに応じたりしながら、グループで話し合う。	(主)進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして、多様な本を讀んだり話したりする。		

期 月	単元（題材）名	指導 時間	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
10 後 半	「よ日と日づけ」	29	・曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使って正しく読み書きする。	(知)身近なことを表す語句の量を増やすとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (思)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。
	「はくしをしたよ」		・観察したことを記録する。	(知)「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつらねるとともに、語彙を正した、語と語との続き方を確かめたりしている。 (知)長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を書いている。
	「ひらがなをつかおう 1」		・平仮名を正しく書く。	(思)「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (主)進んで動物のの様子を観察して記録し、学習の見通しを持って友達に伝える文章を書こうとしている。
	「ふねのせつめいをよもういらいなふね」		・説明的な文章を読み、分かったことをまとめて伝え合う。	(知)助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して、文の中で使っている。 (思)「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつらねるとともに、語彙を正した、語と語との続き方を確かめたりしている。 (主)進んで動物のの様子を観察して記録し、学習の見通しを持って友達に伝える文章を書こうとしている。
11	「のりものカードをつくらう」	29	・乗り物について調べたことをまとめる。	(知)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。 (思)「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。
	「まじめでよごとば」		・意味による語句のまとまりや、まとめて呼ぶ言葉を理解して、語彙を豊かにする。	(主)進んで乗り物について調べて伝えたいことを明確にし、学習の見通しを持って、「のりものカード」を作ろうとしている。 (知)身近なことを表す語句の量を増やすとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。
	「すきなよかをはなそう」		・伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりする。	(主)進んで意味による語句のまとまりについて理解し、学習課題に沿って、まとまりを表す言葉を使って文を作ろうとしている。 (知)姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。
	「こぼれあそばさう」		・言葉遊びを通して言葉の豊かさに気づく。	(主)進んで声の大きさや話す速さに気をつけながら、学習の見通しを持って伝えたいことを話したり、それを聞いて感想を述べたりしようとしている。
12	「おもしろい出しかう」	16	・経験したことを報告する文章を書く。	(主)言葉遊びを通して言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。 (知)かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。
	「ひらがなをつかおう 2」		・絵を見て正しい平仮名を書く。	(思)「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつらねるとともに、語彙を正した、語と語との続き方を確かめたりしている。 (主)進んで事柄の順序に気をつけながら文章の構成を考え、経験したことを報告する文章を書こうとしている。
	「ええに出してようおととねずみずろ」		・物語を読み、内容や感想を伝え合う。	(知)姿勢や口形、発声や発音などの表記を正確に理解して、平仮名を書いている。 (思)「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつらねるとともに、語彙を正した、語と語との続き方を確かめたりしている。 (主)進んで描写、促音、撥音などの表記を確かめ、学習課題に沿って正しい平仮名を書こうとしている。
	「うん字をつかおう」		・漢字を文の中で正しく書く。	(主)進んで事柄の順序に気をつけながら文章の構成を考え、経験したことを報告する文章を書こうとしている。
1	「すきなおはなしはなにかね」	31	・本を読み、自分の好きなお話について、内容や感想を伝え合う。	(知)読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 (思)「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。 (主)進んで読書に親しみ、今までの学習を生かして、好きなお話の内容や感想を友達と伝え合おうとしている。
	「しをよみみすのたのしいぞ」		・詩を読んで、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする。	(知)詩のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (思)「読むこと」において、詩の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持っている。 (主)進んで詩に親しみながら、学習課題に沿って、詩の内容や感想を伝え合おうとしている。
	「わかしばなしをたのしもう」		・読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして、内容や感想を伝え合う。	(知)音読の読み聞かせを聞くことで、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 (思)「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 (主)進んで音読に親しみ、学習課題に沿って、音読のおもしろいところを紹介し合おうとしている。
	「おはなしをかこう」		・音読に慣れて、簡単なお話を作る。	(知)長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使っている。 (思)「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (主)進んでお話しに出てくる人物について考え、学習の見通しを持って、音読に慣れて簡単なお話を作ろうとしている。
2	「かたかなのかみたち」	22	・字形の似た文字との違いに注意しながら、片仮名の言葉を書き、文の中で使う。	(思)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。 (主)進んで片仮名の字形について理解し、字形の似た文字との違いに注意しながら、片仮名を文の中で使おうとしている。
	「ちがいをかんがえよう子どもをまもるとどぶつたち」		・図鑑や科学的な読み本などを読み、分かったことなどを伝える。	(知)共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (思)「読むこと」において、文章を読んで分かったことを共有している。 (主)進んで図鑑や科学的な読み本などを読み、分かったことなどを伝える。
	「ことばをあつめよう」		・意味による語句のまとまりを意識しながら言葉を集め、文の中で使う。	(知)身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使おうとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 (思)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。 (主)意味による語句のまとまりを意識しながら、積極的に、身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って、集めた言葉をつないで文を作ろうとしている。
	「小学校のことをしようかいしよう」		・紹介したいことを話す。	(知)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。 (知)「話すこと-聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。 (主)進んで自分の内容を自分の体験と結び付けて感想を持って、学習の見通しを持って話したいことを話そうとしている。
3	「すきなところをつたえようスライム」	13	・物語を読み、感想を伝え合う。	(知)語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (思)「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。 (主)進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想を持って、学習の見通しを持って物語の好きなところを伝え合おうとしている。
	「かたちのにいるかん字」		・漢字の字形を理解し、正しく読み書きする。	(知)「書くこと」において、文章を読み返す習慣をつらねるとともに、語彙を正している。 (主)進んで漢字の字形を理解し、学習課題に沿って、文の中で使われている漢字を正そうとしている。
	「一年かんのおいでブック」		・いっばん心に残っている出来事を報告する文章を書く。	(知)丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使っている。 (思)「書くこと」において、文章に対する感想を伝え、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。 (主)進んで自分の文章の内容や表現のよいところを見つけ、学習の見通しを持って、いっばん心に残っている出来事を詳しく報告する文章を書こうとしている。
	「書き手準備」		45	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				
<ul style="list-style-type: none"> ・見本を示しながら行う。 ・複製練習は、筆記具に補助器具を必要に応じて活用しながら進める。 ・お話が分かりやすいように、必要に応じてペーパーサート等を使用する。 ・作文を作りやすいよう、ワークシート等を使用していく。 ・グループ形式で楽しく伝えあわせようとする。 ・演習問題としてプリントを用意し、回数をごまかしながら音読を促すようにする。 ・お話に出てくるイラストに注目させたり、実物にやってみたりして想像しやすくする。 ・簡単な日記を書けるよう、ワークシートを準備する。 ・友達の話を聞けるように、話のポイントをワークシート等を活用してまとめるようにする。 ・お話の感想は、一言感想から、どうしてそう思ふかなどと教員の方で聴かせて聞き取りながら進めるようにする。 ・伝えたいことをまとめやすいように、ワークシート等を活用する。 ・内容を、ペーパーサート等を活用しながら演じるようにする。 ・想像したことを付箋に書き出し、並べ替えながらお話を作らうようにする。 ・言葉の意味が分からないように、身近な事柄で例え方の例などを提示しながら進める。 ・漢字の似ているところを部首がらた等を活用しながら考えやすくする。 				

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	算数	グループ名	Cグループ	年間授業時数	136 単位時間
年間指導目標	(知)数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を重ね、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにおける量の大きさを比べたり、簡単な絵や図などに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。				
	(思)ものの数に着目し、具体物や図などを用いて数の数え方や計算の仕方を考える力、ものの形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりする力、身の回りにおけるものの特徴を量に着目して捉え、量の大きさの比べ方を考える力、データの個数に着目して身の回りの事象の特徴を捉える力などを養う。				
	(学)数量や図形に親しみ、算数で学んだことよきや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	生井 恭子 多島 康美				
使用教科書	わくわく算数すたあとぶっく・1 (啓林館)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)	
					(知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度	
一 学 期	4	「算数への導入(わくわくすたあと)」	3	・オリエンテーション(幼児期の体験とのつながり)	(知) 観点を決めたものの集まりのつくり方や、1対1対応による数の多少の判断の仕方を理解し、観点を決めてものの集まりをつくり、2つの集まりの要素を1対1に対応づけたりすることができる。 (思) ものの集まり(集合)、仲間づくり(分類)、および1対1対応の見方・考え方を身につけている。 (主) これまでの体験をもとに、ものの集まりや数に親しみを持って関わり、ものとブロックを対応させるよきや学ぶ楽しさを感じている。	
		「かずと すうじ」	7	・10までの数の数唱、5までの数の合成・分解	(知) 10までの数の数観念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 (思) ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につけている。 (主) 身のまわりの10までの数に親しみを持って関わり、個数を数で表すよきや学ぶ楽しさを感じている。□	
	5	「なんばんめ」	3	・前後、上下、左右に並んだものをみて、順序や位置を表す。	(知) 数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。 (思) 「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてものの順番や位置を表すことを考えている。 (主) これまでの体験をもとに、順番や位置に親しみを持って関わり、順序や位置を数で表すことよきや学ぶ楽しさを感じている。	
		「いくつといくつ」	7	・10までの数の合成・分解をする。	(知) 10までの数の合成・分解と、10の補数関係を理解している。 0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。 (思) 1つの数をほかの数と関係づけて見ている。 (主) これまでの体験をもとに、10までの数の合成・分解に親しみを持って関わり、数構成の仕組みのよきや学ぶ楽しさを感じている。	
	6	「いろいろなかたち」	4	・形の特徴をとらえ、仲間分けする。	(知) 身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。 (思) 身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえている。 (主) これまでの体験をもとに、身のまわりにある立体図形に親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよきや学ぶ楽しさを感じている。	
		「ふえたりへったり」	9	・「バスごっこ」を通した数量の増減の体験、数図ブロックの操作による数量の増減	(知) 数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解している。 (思) 増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えている。 (主) 数量が「ふえたり」「へったり」する事象に親しみを持って関わり、ブロックを使って数量を表すよきや学ぶ楽しさを感じている。	
		「たしざん(1)」		・合併や増加の場面をたし算の式に表す。	(知) たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場面をたし算の式に表し、(1位数)+(1位数)=(10以下の数)の計算をすることができる。 (思) 合併や増加の場面を、同じたし算と考えている。 (主) たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、たし算の式に表すよきや学ぶ楽しさを感じている。	
7	「ひきざん(1)」	10	・ひき算の記号や式のよみ方、計算の仕方	(知) ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。 (思) 求残、求部分、求差の場面を同じひき算と考えている。 (主) ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、ひき算の式に表すよきや学ぶ楽しさを感じている。		
	「かずしらべ」	2	・絵グラフによるものの個数の多少の考察	(知) ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらを読み取ったりできる。 (思) ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴をとらえている。 (主) ものの個数の整理の仕方に親しみを持って関わり、絵グラフに表すよきや学ぶ楽しさを感じている。		
二 学 期	9	「10よりおおいかず」	9	・20までの数の加減計算	(知) 20までの数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだり、かいたりすることができる。 数構成にもとづく加減計算ができる。 (思) 合併や増加の場面を、同じたし算と考えている。 (主) たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、たし算の式に表すよきや学ぶ楽しさを感じている。	
		「なんじなんじはん」	6	・何時・何時半の時刻をよむこと、表すこと	(知) ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。 (思) 10をこえる数を「10といくつ」ととらえたり、数構成にもとづいて加減計算の仕方を考えたりしている。 (主) 身のまわりの20までの数に親しみを持って関わり、「10といくつ」で表したり工夫して数えたりするよきや学ぶ楽しさを感じている。	
	「おおいざくらべ(1)」		・長さ・かさの概念を理解し、具体物を比較する。	(知) 何時・何時半の時刻のよみ方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。 (思) 時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えている。 (主) 生活場面の時刻に親しみを持って関わり、時計の針の位置に目をつけることよきや学ぶ楽しさを感じている。		
10	「3つのかずのけいさん」	5	・3つの数をたしたり、ひいたりする計算	(知) 3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。 (思) 3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えている。 (主) 3つの数が用いられる場面に親しみを持って関わり、1つの式に表すよきや学ぶ楽しさを感じている。		
	「たしざん(2)」	9	・(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算	(知) 繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数)+(1位数)の繰り上がりのある計算ができる。 (思) 10の補数に着目して、繰り上がりのあるたし算の仕方を考えている。 (主) たし算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10をつくって計算するよきや学ぶ楽しさを感じている。		

期	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
三 学 期	11	「かたちづくり」	23	・棒や色板の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成する。	(知)色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。 (思)図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につけている。 (主)色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに親しみを持って関わり、形の特徴に目をつけるよさや学ぶ楽しさを感じている。
		「ひきざん(2)」		・(十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算	(知)繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)-(1位数)の繰り下がりのある計算ができる。 (思)10といくつにわけて、繰り下がりのあるひき算の仕方を考えている。 (主)ひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、10といくつという数の見方で計算するよさや学ぶ楽しさを感じている。
	「0のたしざんとひきざん」	・0を含むたし算、ひき算で、0の扱いを考える。		(知)0を含むたし算・ひき算の式やその計算の仕方を理解し、0を含む計算をすることができる。 (思)0を含む場合のたし算・ひき算の式やその計算の仕方を考えている。 (主)0のたし算やひき算が用いられる場面に親しみを持って関わり、0があるときにも式に表して計算できることのよさや学ぶ楽しさを感じている。	
	「ものとひとつのかず」	・ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題を解く		(知)数量の対応や順序を絵や図に表したり、式にかいて解決したりすることができる。 (思)絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりしている。 (主)順序数や集合数の用いられる場面に親しみを持って関わり、絵や図を使って考えることのよさや学ぶ楽しさを感じている。	
1	2	「大きいかず」	13	・100までの数や100を少しこえる数について、ものの個数や順序を正しく数える	(知)100までの数や100を少しこえる数について、数の構成や系列、大小関係を理解するとともに、よんだ、かいたりすることができる。 (思)「10がいくつと、1がいくつ」や「100と何十何」という見方を働かせて、100までの数や100を少しこえる数について考えている。 (主)身のまわりの100までの数や100を少しこえる数に親しみを持って関わり、10ずつまとめて数えたり数字や数直線で数を表したりするよさや学ぶ楽しさを感じている。
		「なんじなんぶん」	2	・長針短針のさす目盛りに着目し時刻を考える。	(知)時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。 (思)時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、何時何分かを考えている。 (主)生活場面の時刻に親しみを持って関わり、時計の針の位置や目盛りを目をつけることのよさや学ぶ楽しさを感じている。
	「おなじかずずつ」	7	・かけ算、わり算の素地	(知)数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じかずずつ」の意味を理解している。 乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。 (思)等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えている。 (主)同じかずずつにわけられる場面に親しみを持って関わり、具体物を用いて実際に分けてみるよさや学ぶ楽しさを感じている。	
	「100までのかずのけいざん」		・100までの数について、数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を考える。	(知)数構成にもとづくたし算・ひき算の計算の仕方を理解し、100までの数のたし算・ひき算ができる。 (思)数構成にもとづいて、たし算・ひき算の計算の仕方を考えている。 (主)100までの数のたし算・ひき算の場面に親しみを持って関わり、数構成にもとづいて計算できることのよさや学ぶ楽しさを感じている。	
3	「おおきいほうすくないほう」	4	・求大・求小の場面の問題について、数図ブロックや絵、式などを用いて考える。	(知)多少の関係のとらえ方を理解し、求大・求小の問題を解くことができる。 (思)絵や数図ブロックを用いて多少の関係を表し、どんな式になるかを考えている。 (主)生活場面の数の多少に親しみを持って関わり、絵や数図ブロックなどを用いて考えることのよさや学ぶ楽しさを感じている。	
	「大ききくらべ(2)」		・広さの直接比較、間接比較(bを媒介としたa<bかつb<cによるa<cの判断)、広さの任意単位による測定	(知)広さの概念を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。 (思)場面に応じて広さの比べ方を考えている。 (主)身のまわりものの広さに親しみを持って関わり、いろいろな比べ方のよさや学ぶ楽しさを感じている。	
その他		予備時数	12		
		指導の工夫 学習時の配慮事項等		<ul style="list-style-type: none"> ・おはじきなどを使って、5までの数の合成・分解をする。 ・起点を定めてものの位置を表す。 ・ゲームを通して、いろいろな10の合成・分解をする。 ・箱や缶、ボールなど身の回りの形の特徴に着目して仲間分けする。 ・数図ブロックや計算カードを用い分かりやすくする。 ・「10といくつ」という数構成の考え方で説明する。 ・直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる。 ・具体的場面と対応して数図ブロックの操作を繰り返す。 ・色板や棒等を使って様々な形を作る。 ・数図ブロックを用い、被加数があといくつで10になるかに着目する。 ・日常生活場面での計算例を用いる。 ・日常場面での計算例を用いる。 ・分かりやすい、絵や図を用いて考えられるようにする。 ・買い物場面でお金の出し方を考える。 ・時計の模型を使用して、時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えやすくする。 ・計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目できるようにする。 ・数図ブロックや絵、式などを用いて、求大・求小の問題を考えやすくする。 ・日常の生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもちやすくする。 	

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	生活	グループ名	Cグループ	年間授業時数	102 単位時間
年間指導目標	(知)活動や体験の過程において 自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 (思)身近な人々や 社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 (学)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。 ※ (知)知識及び技能の基礎 (思)思考力、判断力、表現力等の基礎 (学)学びに向かう力、人間性等の基礎				
担当教職員	生井 恭子 多島 康美 紺野 大輔				
使用教科書	新しい生活上(東京書籍)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)		
					(知)知識・技能の基礎	(思)思考力・判断力・表現力の基礎 取り組む態度の基礎	(主)主体的に学習に
一 学 期	4	「どきどき わくわく 1ねんせい」	6	<ul style="list-style-type: none"> はじめまして きょうしつ はじめましてともだち 	(知)学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の使い方や友達によさに気付いている。	(思)学校生活に関わる活動を通して、幼児期の教育で使っていた施設との共通点を見付けている。	(主)学校生活に関わる活動を通して、友達や先生と学校生活を過ごすことの楽しさを実感し、安心して遊びや学習をしていこうとしている。
		「がっこう だいすき」	12	<ul style="list-style-type: none"> ともだちと がっこうをたんけんしよう がっこうにいる ひととなかよくなるう 	(知)学校探検や通学路探検を通して、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることに気付いている。	(思)学校探検や通学路探検を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々と、自分との関わりを見付けている。	(主)学校探検や通学路探検を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。
	5	「はなをさかせよう」	8	<ul style="list-style-type: none"> たねを まこう はなをそだてよう はなのようすをつたえよう たねをとろう 	(知)植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	(思)植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、成長の様子に関心をもって働きかけている。	(主)植物を継続的に栽培する活動を通して、植物に親しみをもち、大切にしようとしている。
	6 7	「なつがやってきた」	8	<ul style="list-style-type: none"> こうていでなつをさがそう こうえんでなつをさがそう みずであそぼう あめあがりのこうていをたんけんしよう なつのことをつたえよう 	(知)夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の様子や自然を使った遊びの面白さに気付いている。	(思)夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然を全身で感じながら夏の自然を生かした遊びを楽しんでいる。	(主)夏の自然と関わる活動を通して、公共物や公共施設を安全に正しく利用したり、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしたりしようとしている。
二 学 期	9	「いきものとなかよし」	8	<ul style="list-style-type: none"> むしをさがそう むしとなかよくなるう どうぶつのせわをしよう 	(知)身近な環境にいる生き物を探したり観察したりする活動を通して、身近な生き物の様子や特徴、生命をもっていることに気付いている。	(思)身近な環境にいる生き物を探したり観察したりする活動を通して、生き物の育つ場所、動きや特徴に関心をもって働きかけている。	(主)身近な環境にいる生き物を探したり観察したりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
	10	「たのしいあきいっぱい」	21	<ul style="list-style-type: none"> こうていであきをさがそう こうえんであきをさがそう はっぱやみであそぼう あきのことをつたえよう あきのおもちゃをつくろう いっしょにあそぼう 	(知)秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や季節の変化、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	(思)秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	(主)秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
	11	「じぶんでできるよ」	12	<ul style="list-style-type: none"> • いえでのせいかつをみつめよう • じぶんでできるよことをしよう • これからもつづけよう 	<p>(知) 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付いている。</p> <p>(思) 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどについて考えている。</p> <p>(主) 家庭生活について、調べたり、尋ねたり、実際に行ったりすることを通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。</p>
	12				
三 学 期	1	「ふゆをたのしもう」	10	<ul style="list-style-type: none"> • こういでふゆをさがそう • こうえんでふゆをさがそう • そとであそぼう 	<p>(知) 冬の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、遊びの面白さや自然の不思議さ、季節によって生活の様子が変わること気付いている。</p> <p>(思) 冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然の様子を比べたり、自然を利用した遊びを工夫したり、公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりしている。</p> <p>(主) 冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れたり、公園など身の回りの公共施設を大切に利用したりして、自分の生活を楽しくしようとしている。</p>
	2	「もうすぐ2ねんせい」	17	<ul style="list-style-type: none"> • あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう • しょうたいしたことをはなしあおう • 1ねんかんをふりかえろう • おおきくなったじぶんをみつめよう 	<p>(知) 年長児と関わりを深めたり、入学してからの1年間を振り返ったりする活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさや、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。</p> <p>(思) 年長児と関わりを深めたり、入学してからの1年間を振り返ったりする活動を通して、1年前の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々との関係を見付けたりしている。</p> <p>(主) 年長児と関わりを深めたり、入学してからの1年間を振り返ったりする活動を通して、これまでの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。</p>
	3				
その他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを使用し、整理できるようにする。 • ロールプレイングを設定し、物語の役になりきる場面を作り、具体的に考えられるようにする。 • 外に出て実際の季節を感じられるようにする。 • 具体的な場面を設定して演じてみる。 • 状況がイメージしにくい内容や、映像資料が有効と思われる場合には、適宜視聴覚機材を活用する。 	

令和 年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	音楽	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	74 単位時間
年間指導目標	(知)楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を身に付ける。 (思)基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。 (学)様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴く態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	多島 康美 生井 恭子				
使用教科書	小学生のおんがく1(教育芸術社)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点) (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	うたって おどって なかよくなるう はくを かんじとろう みの まわりの おとに み みを すまそう	6	どみそらんど セブン ステップス ひらいた ひらいた おとで おはなし さんぼ ぶん ぶん ぶん みんなであそぼう うみ おとを さがして あそぼう	(知)身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。 (思)音色、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。 (主)身の回りの音に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、身の回りの音への意識を高める態度を養う。
	5		7		
	6		9		
	7		5		
二学期	9	どれみと なかよくなるう せんりつで よびかけあおう	7	けんばんハーモニカで いろいろなおとを みつけましょう。 どと その おととともだちになりましょう。 けんばんハーモニカのおとを ききましょう。	(知)曲想と音色などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、歌唱や楽器の技能を身に付ける。 (思)音色、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (主)階名と、鍵盤ハーモニカの音色や演奏の仕方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や楽器、鑑賞の学習活動に取り組み、音の高さの違いや鍵盤楽器への関心を広げる。
	10前半		4		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	せんりつで よびかけあおう がっきと なかよくなるう ようすを おもいうかべよう	4	やまびこ ごっこ まねっこあそび 行進曲 おとさがし	(知) 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わり、音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなど関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、打楽器を演奏する技能や、反復や呼びかけとこたえを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。 (思) 音色、リズム、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかや、どのように音を音楽にしていかにについて思いをもったり、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (主) 打楽器の音色や演奏の仕方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に様々な音楽にみられる打楽器の音色に親しむ。
	6		さがしてみようならしてみよう きらきらぼし はる なつ あき ふゆ		
	8				
三 学 期	1	にほんの うたを たのしもう みんなであわせて たのしもう	6	さんちゃんが おおなみ こなみ おちゃらか ほしい あいあい とんくるりん ばんくるりん	(知) 曲想と音色などの音楽の構造との関わり、楽器の音色と演奏の仕方との関わり、音のつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなど関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、打楽器を演奏する技能や、反復や呼びかけとこたえを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付ける。 (思) 音色、リズム、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかや、どのように音を音楽にしていかにについて思いをもったり、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (主) 打楽器の音色や演奏の仕方に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に様々な音楽にみられる打楽器の音色に親しむ。
	6		こいぬの マーチ		
	6				
そ の 他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等			校歌、君が代、季節の歌は児童の実態などに応じて取り入れる。		

令和 年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	図画工作	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	78 単位時間
年間指導目標	(知)自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。カラーペンやクレヨン、パスなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表現したいことを基に表し方を工夫して表している。 (思)形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表現したいこと、表し方などについて考えるところに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。 (学)つくりだす喜びを味わい、楽しく開いた箱を見て想像したことを絵に表す学習活動に取り組もうとしている。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	紺野大輔				
使用教科書	図画工作 1・2上 わくわくするね				

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）		
					(知) 知識・技能	(思) 思考力・判断力・表現力 に 取り組む態度	(主) 主体的に学習
一 学 期	4	・すきなもののいっぱい ・おしえて みんなの すきなもの	3 3	・食べ物や乗り物、動物など好きなものをたくさん描く。 ・自分や友達が描いたものを見せ合う。	(知)好きなものを描く活動を通して、クレヨンやパスなどの色に気づいている。自分や友達の描いた好きなものを見ることを通して、いろいろな形や色に気づいている。 (思)好きなものを思い浮かべ、表現したいことを見つけたり、好きな色や画用紙の形を考えたりしながら、どのように表すか考えている。 (主)描くことの喜びを味わい、好きなものを思いのままに、描く学習活動にたのしく取り組もうとしている。いろいろな形や色があることに気づく。		
	5	・消防車を描こう ・ねんど なかよし ・すきなものいろいろあるね	3 3 2	・消防学生 ・粘土を触ってたのしく活動する。 ・土粘土に触れ合いながらつくりたいものをつくる。	(知)特徴を見て自分なりの表現しようとする。 粘土に働きかける感覚や行為を通して、触った感じや形の変化に気づいている。 (思)粘土を触った感じやそこから生まれる形をもとに、造形的な活動を思いつき、どのように表すか考えている。 (主)粘土の心地よい感触を味わい、粘土で好きなものをたくさんつくる学習活動にたのしく取り組もうとしている。		
	6	・すきなものいろいろあるね ・ならべて みつけて ・チョッキンパッドでかざろう	1 2 2	・土粘土に触れ合いながらつくりたいものをつくる。 ・材料の形や色をもとに発想し、材料の並べ方を考えながら活動する。 ・折った色紙を切って開くとできる形をつなげて飾る	(知)いろいろな材料を並べたり組み合わせたりする活動を通して、形や色、並べ方の面白さに気づいている。折り方や切り方によってできる形や色の組み合わせに気づいている。 (思)いろいろな材料の形や色、大きさなどの特徴から、並べ方を思いつき、どのように活動するか考えている。 (主)いろいろな材料の形や色、大きさなどに関心をもち、好きな並べ方を見つける学習活動にたのしく取り組もうとしている。		
	7	・さわって まげて きもちいい	4	・手や指を使って絵の具で描くたのしさや気持ちよさを味わう。 ・身近な材料を使って、形を見つけながらスタンプする。	(知)手や指で描くことを通して、触った感じや絵の具の跡の形や色の違いに気づいている。いろいろな材料を写すことを通して、写った形や色などに気づいている。 (思)手や指で思いのままに描いたり塗ったりした形や色から表現したいことやものを見つけて、どのように表すか考えている。身近な材料を写してできる形や色をもとに造形的な活動を思いつき、どのように活動するか考えている。 (主)とろとろ絵の具の気持ちよさを味わい、手や指につけて描いたり塗ったりする学習活動にたのしく取り組もうとしている。つくりだす喜びを味わい、スタンプをする学習活動にたのしく取り組もうとしている。		
二 学 期	9	・あそぼうよ パクパクさん ・こすりだしから うまれたよ ・スタンプべったん	3 3 2	・手で動かして遊ぶおもちゃをつくる。 ・こすりだした模様の形や色から工夫して表現する。 ・身近な材料を使って、形を見つけながらスタンプする。	(知)パクパクと動く様子から、つくりたいものを工作に表すことを通して、形や色などに気づいている。凸凹をこすりだす活動を通して、クレヨンやパスで表される模様の形や色などに気づいている。 (思)パクパクと動く様子をもとにして、感じたことや、想像したことから表現したいことを見つけ、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えている。こすりだしをする活動を通して、見えてきた形や色から表現したいことや表現したいものを見つけて、どのように表すか考えている。 (主)つくりだす喜びを味わい、パクパクと動く様子をもとにしてつくりたいものを表す学習活動にたのしく取り組もうとしている。クレヨンやパスで凸凹をこすりだす学習活動にたのしく取り組もうとしている。つくりだす喜びを味わい、スタンプをする学習活動にたのしく取り組もうとしている。		
	10 前半	・うきうきボックス ・いろんなともだちはなしだす	3 2	・紙箱の形を変えたり飾りをつけたりしてつくりたいものをつくる。 ・型押しをした紙粘土をもとに顔をつくる。	(知)箱の飾りつけを考えたり、互いの作品を見せ合ったりすることを通して、形や色に気づいている。 粘土を型押しすることを通して、できた形や色などに気づいている。 (思)空き箱の形や色をもとに、つくりたいものを思いつき、どのように表すか考えている。型押しでできた粘土の形から想像して、どのように表すか考えている。 (主)空き箱を飾ることに関心をもち、空き箱で表す学習活動にたのしく取り組もうとしている。粘土で顔をつくったり、粘土の友達でお話ししたりする学習活動にたのしく取り組もうとしている。		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	・だいすき！ わくわくペーパー ・ふわっとぎゅっと おはながみのえ	2 3	・大きな紙の触り心地や大きさなどの特徴を感じながら体全体を使って活動する。 ・丸めたり、ちぎったりしたお花紙を、並べたり重ねたりして絵に表す。	(知) 紙を優しく触ったり、歩きながら紙をなびかせたりして紙の特徴に気づいている。材料の形を変えたり貼り重ねたりすることを通して、材料のもつ形や色、触った感じに気づいている。 (思) 紙を使って、どのようにたのしく遊ぶか考えている。貼り重ねた材料の形や色から表したいものを見つけ、どのように表すか考えている。 (主) 体全体を使って、紙で遊ぶ学習活動にたのしく取り組もうとしている。材料の形や色、触り心地を味わい、お花紙を並べたり重ねたりして表す学習活動にたのしく取り組もうとしている
	11	・おしらせします！ にっこりニュース	8	・たのしかったことやうれしかったことを絵に表す。	(知) クレヨンやパスなどの身近な材料を使って描く活動を通して、表したいものの形や色に気づいている。 (思) 日常生活の中で感じたことから表したいことを見つけ、どのように表すか考えている。 (主) 日常の出来事をたのしく描き、友達に知らせる学習活動にたのしく取り組もうとしている。
	12	・くしゃくしゃ だいへんしん ・ふわっ ふわっ ゴー	4 2	・くしゃくしゃにした紙からつくりたいものを立体に表す。 ・うちわであおぐと風で動いたのしいおもちゃを考えて作る。	(知) つくったり互いの作品で遊んだりすることを通して、飾りの形や色に気づいている。 (思) 風で動く仕組みや動きの特徴をもとに、つくりたいものを思いつき、どのように表すか考えている。 (主) 風で動くおもちゃをつくる学習活動にたのしく取り組もうとしている。
三 学 期	1	・つくって へんしん	5	・さまざまな材料を選んだり組み合わせたりしながらつくり、身に付けてたのむ。	(知) 変身グッズをつくることを通して、形や色などに気づいている。 (思) 自分が変身してみたものに合わせた変身グッズを思いつき、どのように表すか考えている。 (主) 変身したいものに合わせた変身グッズをつくることや、変身する学習活動にたのしく取り組もうとしている。
	2	・はこと はこを くみあわせて	8	・空き箱を組み合わせて好きなものを立体に表す。	(知) いろいろな紙箱を組み合わせることを通して、紙箱の形や色に気づいている。 (思) 紙箱の形や色などをもとに、つくりたいものを思いつき、どのように表すか考えている。 (主) 箱を組み合わせることで、いろいろな形ができることに関心をもち、箱を組み合わせてつくる学習活動にたのしく取り組もうとしている。
	3	・ようこそ あたらしい 1ねんせい	6	・友達と関わり合いながら自分の気持ちを伝える作品をつくって飾る。	(知) 伝えたい気持ちを表すために、思いついたものを表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色に気づいている。 (思) 伝えたい気持ちから表したいことを見つけ、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えている。 (主) つくりだす喜びを味わい、伝えたい気持ちを表す学習活動にたのしく取り組もうとしている。
そ の 他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等				児童の登校実績を見つつ、単元を入れ替える可能性がある。	

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	体育	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	38 単位時間
年間指導目標	(知)身体の動かし方や道具の使い方をまねしたり、動かしたりして身体の動かす基本を身に付ける。				
	(思)自己の課題を見付け、その解決のための方法や動かした方の工夫をする。□				
	(学)各種の運動に積極的に取り組み、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。□				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	多島康美 生井恭子				
使用教科書					

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
					(知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	「道具を使っての運動あそび(授業参観発表)」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・シュート型ゲーム ・ベースボール型ゲーム 	(知) ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。 (知) ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができる。 (思) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (主) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。
	5				
	6	「水はともだち」 (実施できない場合 体づくり遊び)」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊び(水慣れ、水中歩行、もぐる、息を吐くなど) ・浮く(背浮き、伏し浮き、けのびなど) ・泳ぐ(補助具を使ってキックやストローク等) 	
	7				
二学期	9	「表現あそび」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス(しかもと音頭、ソーラン節等) 	(知) 表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができる。 (思) 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半				踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (主)運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすること。
	11	「サーキット走」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット走 ・30m走 ・リレー 	(知)サーキット走・30m走・リレーでは、一定の距離を全力で走ったり、滑らかなバトンの受渡しをしたりすることができる。 (思)自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (主)運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。
	12				
三 学 期	1				
	2	○球技あそび(ボッチャ)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明 ・ボッチャゲーム ・準備、片付けも担当する 	(知)基本的なルールを身に付ける。 (思)自分の位置や、ボールの投げ方を工夫している。 (主)順番を理解したり、友達を応援したりする。
	3	○球技あそび(ボッチャ)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール説明 ・ボッチャゲーム ・準備、片付けも担当する 	(知)基本的なルールを身に付ける。 (思)自分の位置や、ボールの投げ方を工夫している。 (主)順番を理解したり、友達を応援したりする。
そ の 他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等			体調や身体の様子に合わせて学習内容を変更したり、参加の仕方を工夫したりする。 身体の様子については、保護者と相談しながら行う。		

令和 年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	道徳科	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	38 単位時間
年間指導目標	(知)善悪の判断や社会や公共のルールを理解する。 (思)学校や家庭で過ごす中で、親切心や感謝の気持ちをもつ。 (学)学校生活の中で、道徳心を学ぶ。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	紺野大輔				
使用教科書	小学 どうとく ゆたかなこころ 1年生(光文社)				

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	あいさつで げんきに (あいさつパワー)	3	1 生活の中で、どんなあいさつがあるかを互いに聞き合う。 2 「あいさつで げんきに」を読み、心を込めたあいさつの気持ちよさについて話し合う。 3 教室内で、友達と気持ちを込めたあいさつの練習をする。	(知)あいさつ・言葉づかい・動作などの礼儀は、相手を一人の人間として敬うものであり、時・場・相手によって使い分けがあることが分かる。 (思)相手を敬い、明るく希望に満ちた気持ちであいさつをしている人を見て、いいなあと思う。 (学)身近な親しい人たちに明るくのびのびと接しようと思いがけ、気持ちのよいあいさつをしようとする。
	5	みんなで まもろう (きまりをまもろう)	3	1 生活の中で、みんなで使うものや場所には、どのようなきまりがあるかを話し合う。 2 「みんなで まもろう」を読み、きまりがある理由について話し合う。 3 自分が守っているきまりを発表する。	(知)身の回りには、いろいろなきまりがあることや、そのきまりがあるわけが分かる。 (思)きまりを守って生活を送ることのよさを感じる。 (学)身の回りがあるきまりを守って生活しようとする。
	6	みんな みんな いきて いる (いのちのすばらしさ)	3	1 「手のひらを太陽に」の歌詞を見て、歌のイメージを膨らませる。 2 「みんな みんな いきて いる」を読み、「いのちのかがやき」について話し合う。 3 命が輝けるように応援してくれている人を見つけ、発表する。	(知)友達や周りの人々と関わる日々の生活の中に、自分の命の輝きがあることが分かる。 (思)喜んだり悲しんだりしながら、いろいろなことができる命のすばらしさに心が動く。 (学)前向きな気持ちもちながら、生き生きと元気に生活し、自分の命をきらきらと輝かせていこうとする。
	7	ルールが ないと どうなるの？ スマホや ゲームきなどを つか うとき (みんなで ルールを かんがえ よう)	4	1 「ルールが ないと どう なるの？」を読み、ルールの大切さについて話し合う。 2 具体的な場面の問題を考え、ルールについての考えをまとめる。 3 この学習で分かったことを通して、身の回りのルールのよさについて考える。	(知)情報機器を使うときの約束やきまりがある理由が分かる。 (思)自分や周りの人が気持ちよく過ごせるような使い方によさを感じる。 (学)身の回りの約束やきまりを守り、情報機器を安全に使うとする。
二 学 期	9	ちゃんとの たつじん (まいにちを きもちよく)	3	1 日々の生活で見つけた、「ちゃんとの たつじん」を発表し合う。 2 「ちゃんとの たつじん」を読み、基本的な生活習慣を身につけるにはどうしたらよいかについて話し合う。 3 これからなりたい「ちゃんとの たつじん」の目標を見つけて発表する。	(知)基本的な生活習慣を身につけることの大切さが分かると共に、そのような生活をするためには、節度を守り節制に心がけ、それを続けることが大切であることが分かる。 (思)基本的な生活習慣を身につけた人に対して、すばらしいと心が動く。 (学)日々の生活のさまざまな場面で、基本的な生活習慣を身につけて、
	10 前半	やさいむらの こどもたち (すききらいに とらわれな いで)	2	1 だれとでも仲よくするために大切なことを話し合う。 2 「やさいむらの こどもたち」を読み、好き嫌いにとらわれないで接するよさを考える。 3 だれとでも仲よくするために大切なことをまとめる。	(知)自他の違いや自分の好き嫌いにとらわれないで、人と接することのよさが分かる。 (思)差別や偏見を避け、公正、公平に人と接することのよさを感じる。 (学)自他の違いや自分の好き嫌いにとらわれないで、だれとでも分け隔てなく接しようとする。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	やさいむらの こどもたち (すききらいに とらわれな いで)	2	1 だれとでも仲よくするために大切なことを話し合う。 2 「やさいむらの こどもたち」を読み、好き嫌いとらわれなくて接するよさを考える。 3 だれとでも仲よくするために大切なことをまとめる。	(知) 自他の違いや自分の好き嫌いとらわれなくて、人と接することのよさが分かる。 (思) 差別や偏見を避け、公正、公平に人と接することのよさを感じる。 (学) 自他の違いや自分の好き嫌いとらわれなくて、だれとでも分け隔てなく接しようとする。
	11	おつきさまが みて いる (あかるい ところで)	4	1 正直について考える。 2 「おつきさまが みて いる」を読み、正直であることについて考える。 3 授業で学んだ正直に生きようとする心についてまとめる。	(知) 人は、うそをついたりごまかしたりする行為を恥ずかしいと思う良心をもっていることが分かる。 (思) 人の言葉によって触発されて良心が目覚め、正直に生きようとする姿に心が動く。 (学) 自分の中にも良心があることが分かり、その心を大切に明くくつびのびと生活していこうとする。
	12	ウォルト・ディズニー - どうぶつと いっしょに- (しぜんと なかよし)	3	1 自分が好きな動物とそのわけを発表し合う。 2 「ウォルト・ディズニー - どうぶつと いっしょに-」を読み、自然や動物物を大切にすすばらしさについて話し合う。 3 優しい心で自然に接した経験を発表する。	(知) 身近な動植物に優しく接するすばらしさが分かり、そうしたいと思う心が自分にもあることが分かる。 (思) 身近な動植物を大切にすすばらしさを感じる。 (学) 身近な動植物を大切にす、自然と共に生きていこうとする。
二 学 期	1	エマさんの こたえあわせ (がいこくのひとと なかよ く)	3	1 他国の人との関わり方について考える。 2 「エマさんの こたえあわせ」を読み、他国の人と仲よくするために大切なことを話し合う。 3 授業で学んだ他国の人と仲よくするために大切なことをまとめる。	(知) 他国には日本と違った文化があることが分かる。 (思) 他国との文化や生活の違いに触れ、他国の人々に親しみを感じる。 (学) 他国の人々や文化に親しみをもち、もっと調べてみようとする。
	2	ぼくにも あるかな (わたしは どんなひと)	2	1 自分の得意・不得意について考える。 2 「ぼくにも あるかな」を読み、自分や友達のよいところを考える。 3 自分や友達のよいところを考える。	(知) よりよい自分になりたいと思うことで、自分や友達の特徴が見えてくる ことが分かる。 (思) 自分にも友達にも、それぞれのよさがあることに心が動く。 (学) 自分や友達のよいところをもっと知ろうとする。
	3	もうすぐ 二ねんせい (わたしたちの がっきゅ う)	2	1 1年生になって頑張ったことやできるようになったことと、その理由について話し合う。 2 「もうすぐ 二ねんせい」を読み、学校のよさについて話し合う。 3 学校のよさを味わい、今後どうつなげるかまとめる。	(知) 学校生活を通していろいろなことができるようになった背景には、教師や友達の支えや励ましがあったことが分かる。 (思) 教師や友達の支えや励ましで、いろいろなことができるようになったことにうれしさを感じる。 (学) 教師や友達と共に過ごす学校生活によさを感じ、進級に向けての希望をもつ。
そ の 他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等				児童の登校実績を見つつ、単元を入れ替える可能性がある。	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	自立活動を主とする教育課程
教科等名	特別活動	グループ名	C	年間授業時数	43 単位時間
年間指導目標	(知)集団の活動の中で、友達を意識する。 (思)集団で活動することの楽しさを味わう。 (学)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育む。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:紺野 大輔 熊谷 朋子 重安 淳平 学校介護職員:林 英美				
使用教科書					

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	入学式 自己紹介 新入生歓迎会 学年の時間	5	○始業式、新入生歓迎会 ◆学校生活の始まりを感じ取る。 ◆学期の始まりと終わりを体験し、学校生活の節目を知る。 ○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	5	学年の時間	3	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	6	学年の時間	5	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	7	学年の時間 終業式	3	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。 ○終業式 ◆学期の終わりを体験し、学校生活の節目を知る。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
二 学 期	9	始業式 学年の時間	4	○始業式 ◆学校生活の始まりを感じ取る。 ◆学期の始まりと終わりを体験し、学校生活の節目を知る。 ○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	10 前半	学年の時間	2	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	学年の時間	1	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	11	学年の時間 虹輝祭	4	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。 ○虹輝祭 ◆虹輝祭は学習の成果を発表する。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	12	学年の時間 終業式	5	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。 ○終業式 ◆学期の終わりに意識を向け、学校生活の節目を知る。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
三 学 期	1	始業式 学年の時間	3	○始業式 ◆学校生活の始まりを感じ取る。 ◆学期の始まりと終わりを経験し、学校生活の節目を知る。 ○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	2	学年の時間	4	○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
	3	6年生を送る会 学年の時間 修了式	4	○6年生を送る会、修了式 ◆学期の終わりに意識を向け、学校生活の節目を知る。 ◆1年生のまとめや振り返りを通して、自分や友達の成長を知るとともに、次年度への期待感をもつ。 ○学年の時間 ◆歌やゲーム、交流や集会等の経験を通して、集団活動に慣れる。	(知)集団の活動の中で、友達を意識している。 (思)集団で活動することの楽しさを味わっている。 (主)教師等や友達との交流を通して、人間関係を育て、社会性を育もうとしている。
そ の 他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の特質を生かし、特別活動における集団活動と交流活動の関連を図る。 ・初めは安心して活動できるよう、教職員を介して関わりを深めていけるようにする。 ・それぞれの児童の実態、役割を明確にしたうえで児童の集団でのねらいを設定する。 ・児童が見通しをもち、安心して参加できるように視聴覚教材や身体活動を伴う教材を準備する。 	

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	小学部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	自立活動	グループ名	Cグループ	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)日常生活に必要な体力を身に付ける。 (思)自分の身体の状態を知り、機能の維持・向上させるための取り組みを考えることができる。 (学)介助や自分の希望などを伝える時に、丁寧な言葉遣いで話そうとすることができる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	福永映子 藤原千嘉 多島康美 生井恭子 紺野大輔				
使用教科書					

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点） （知）知識・技能 （思）思考力・判断力・表現力 （主）主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	「自分の身体のことを知り、使い方を覚えよう」 「丁寧な言葉遣いで話そう」	25	・ストレッチ、筋力トレーニング、バランストレーニング、四つ這い、膝立ち、身体の使い方のイメージ作り、持久力の向上など ・支援が必要な場面での依頼方法、お礼の言い方	(知)日常生活に必要な体力を身に付ける。 (思)自分の身体の状態を知り、機能の維持・向上させるための取り組みを考えることができる。 (主)介助や自分の希望などを伝える時に、丁寧な言葉遣いで話そうとすることができる。
	5				
	6				
	7				
二学期	9	「自分の身体のことを知り、使い方を覚えよう」 「丁寧な言葉遣いで話そう」	25	・ストレッチ、筋力トレーニング、バランストレーニング、四つ這い、膝立ち、身体の使い方のイメージ作り、持久力の向上など ・支援が必要な場面での依頼方法、お礼の言い方	(知)日常生活に必要な体力を身に付ける。 (思)自分の身体の状態を知り、機能の維持・向上させるための取り組みを考えることができる。 (主)介助や自分の希望などを伝える時に、丁寧な言葉遣いで話そうとすることができる。
	10前半				

期	月				
二学期	10 後半				
	11				
	12				
三学期	1	「自分の身体のことを知り、使い方を覚えよう」 「丁寧な言葉遣いで話そう」	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ、筋力トレーニング、バランストレーニング、四つ這い、膝立ち、身体の使い方のイメージ作り、持久力の向上など ・支援が必要な場面での依頼方法、お礼の言い方 	(知) 日常生活に必要な体力を身に付ける。 (思) 自分の身体の状態を知り、機能の維持・向上させるための取り組みを考えることができる。 (主) 介助や自分の希望などを伝える時に、丁寧な言葉遣いで話そうとすることができる。
	2				
	3				
その他					
指導の工夫 学習時の配慮事項等		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動担当の教員と相談しながら取り組む。 ・必要に応じて個別のメニュー表を作り見通しをもって取り組めるようにする。 ・意欲的に取り組めるように、ゲームの要素などを取り入れる。 			